

# 同 志 社 大 学

## 2008 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2008年3月23日提出

所 属	職 名	氏 名
法学部	教授	力久 昌幸
研 究 題 目	多層ガヴァナンスに関する比較研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>多層ガヴァナンスの理論的検討を行う上で重要なグローバル化とガヴァナンスという2つの概念を再検討し、国内政治と国際政治の間に明確な線引きを行ってきたそれまでの見方に疑問を投げかけ、両者の接続の側面とそれに関与する国家以外の多様なアクターの活動に注意を喚起する多層ガヴァナンス概念の有用性を明らかにした。</p> <p>また、多層ガヴァナンス概念を適用したケース・スタディとして、イギリスのスコットランドへの権限移譲改革に対する労働党の適応について検討を行った。スコットランドに対する権限移譲の実現により、労働党の党内関係にどのような変化が見られたのか、政党組織、選挙戦略、統治戦略という3つの側面に焦点をあてて考察した。スコットランドへの権限移譲によりもたらされた多層ガヴァナンスの状況に、労働党はこれまで比較的スムーズに適応してきたことを明らかにした一方、イギリスの統治システムが多層ガヴァナンスの様相を見せるようになったのと足並みをそろえるように、労働党などの政党組織においても多層ガヴァナンスに対応するストラタキー（政党内部の多様な利害のバランスをとるために、階層制組織における中央の統制を緩和し、それぞれの階層に一定の自立性を認める組織形態）への変化が進行していることを指摘した。</p> <p>以上の研究成果については、以下の論文にまとめている。 力久昌幸「グローバル化と多層ガヴァナンス」、「多層ガヴァナンスと政党政治：スコットランドへの権限移譲改革に対する労働党の適応を中心として」富沢 克・力久昌幸編著『グローバル時代の法と政治：世界・国家・地方』（成文堂、2009年3月出版予定）</p>	